

耳鼻科の2002年

耳鼻咽喉科医長 齋藤 滋

診療体制

平成14年4月に釧路労災より長峯医師が着任し、長い間耳鼻科医を苦しめていた1人体制が終了しました。中島医師は2人体制になってまもなく、長峯先生の専門医試験を見届けて、8月一杯で退職し、恵庭の方で11月に開業しています。2ヶ月間の長峯体制の後、私齋藤が稚内より着任しています。稚内には土別の国部医師が赴任、土別は出張医体制となりました。

所 感

私は前任地には約6年居りましたので何かと比較してしまいます。どちらの病院も広範囲な医療圏を抱えており、地域の中核の病院といえます。稚内はこちらよりももちろん古く私としては新しい家に暮らすようで楽しい毎日を送っています。比べますと、稚内は7階建てなのにエレベーターが2基しかありませんでした。しかし、医局は名寄より広く隣の机との間に仕切りと引き出しがありました。ロッカーも靴を横に並べて入れることができる普通の幅でした。もう慣れましたがこんなに幅の狭いロッカーがあったとは初めて知りました。

外 来

さて少しまじめな話をしてみたいと思います。私がこちらに来て、最初にしたのは、以前から外来にあったCCDカメラの有効利用です。インフォームド・コンセントの重要性が問われている時代にあっては、何をやるにしても、分かり易く説明することが大切だと思います。それには直接見せることが一番分かり易いと考え、患者さんや、保護者に画像を見せて説明することにしていきます。

これは耳鼻科でも一部の病院ではごく当たり前に行われていることです。また、心がけていることとして、遠方から来院している患者さんが多いため、必要な検査は次回に延ばさず、なるべく当日に行うことにしています。CTも単純写真を撮るように撮影でき、エコーも画像のきれいに驚きました。一方、そのしわ寄せは外来スタッフにかかってしまっており、現在、午後外来の開始時間について検討しているところです。

病棟 / 手術

耳鼻咽喉科一般の手術をえり好みなくやっています。2002年は手術室での症例は141件と微増でした。稚内では鼻涙管関係の手術や処置を100例以上行ってきましたので、ぜひこちらでも涙目で困っている患者さんのお役に立てればと思っています。また、顔面痙攣、眼瞼痙攣に対するボツリヌス毒素の注射療法を行うための講習を受けており、稚内でも2例行い良好な結果を得ています。そのような患者さんが居られましたらぜひ紹介していただきたいと思っています。

学 会 活 動

全国学会一回と論文一編を達成したいと考えています。カーリングやゴルフ・野球ばかりしないで少しは勉強するつもりでおります。

そ の 他

先ほど述べましたように、流涙や嚥下障害、顔面外傷、急性中耳炎など他科との関連が深い疾患を多く扱っていかねば耳鼻咽喉科の発展はあり得ません。皆さまどうぞよろしくお願いいたします。